

議 長	局 長	次 長	係 長	係 長	課 員	担 当

第 39 回議会改革推進会議 会議記録簿

開 催 日	平成 29 年 11 月 16 日 (木)	場 所	特別会議室
開催時間	午前 10 時 00 分～午前 11 時 16 分	休憩時間	時 分～ 時 分
			時 分～ 時 分
出席委員	全 員 ・ 欠席 名 (委員、 委員、 委員)		
その他 出席者		事務局 出席者	澤口道夫事務局長、及川忠則次長、 皆川議事係長、長内紳悟主査

(適用・要旨)

進行：座長 中平浩志議長

○協議案件

(1) 議会活動の検証 (チェックシート) について

・本日は、平成 28 年度改革取組事項について、議会活動チェックシート (事務局調製案) をもとに評価検証を行う。

【議会活動の見える化】

[本会議以外の会議のようすが市民に見えにくい]

・今後どのような見える化が手法として考えられるか。(中平浩志議長)

⇒委員会の見える化の段階から今度は、実際に傍聴者や動画閲覧者が委員会を見たとき、委員会運営そのものが分かりやすい、質疑・答弁のやりとりが見えやすいといった視点からの取組みが考えられる。(事務局 長内)

・委員会動画中継へのアクセス数が低い。閲覧者は議会関係者の可能性も高いことから、住民の閲覧はほぼないのではないか。(上山昭彦委員)

・委員会の活性化、議論の活発化が伴わないと委員会の動画中継は見ないのではないか。一方、一般質問の動画中継については見ている住民も多いと聞く。(山口健一委員)

・一日一常任委員会化は議員へのメリットが大きく、多くの議員が所属委員会以外の委員会を傍聴するようになった。それを一般傍聴者にもどう広げるかが課題である。(澤里富雄委員)

・議会を見てもらうきっかけとなるよう、学校に対して総合学習等の時間を使って議会を一度傍聴してもらってもよいのではないか。選挙権の年齢引き下げも踏まえれば、高校前段階の中学生にアプローチしてもよいのではないか。(桑田鉄男委員)

・「達成度」はB評価とする。「課題事項」は、自己満足型に見える化ではなく、いかに見てもらえる委員会にしていくか。「住民から見た変化」は、一日一常任委員会化で傍聴機会が増えたこと。また、インターネットを通じていつでもどこでも委員会の動画中継を見ることができるようになったこと。「今後の取組方法」は、中高生や若者にも見てもらえるような委員会運営を進めること。

[会議日以外の活動のようすが市民に見えにくい]

・「達成度」はA評価とする。「課題事項」は、成果の見える化として、会派視察がその後どのように活かされているのか見える化していくこと。「住民から見た変化」は、インターネットを通じていつでも政務活動の内容や領収書を確認できるようになったこと。「今後の取組方法」は、会派活動を議会広報に掲載するなどして会派活動の活性化を促し成果の見える化に繋げていくこと。

【未成年を対象としたシティズンシップの推進】

・かだって会議から模擬議会、模擬請願、模擬選挙まで展開していく必要がある。(桑田鉄男委員)

・かだって会議だけでなく、中高生に対しては出前議会というアプローチも必要ではないか。(澤里富雄委員)

・「達成度」はA評価とする。「課題事項」は、未成年と議会との接点づくりを増やしていくこと。「住民から見た変化」は、かだって会議に参加した高校生が地域や政治を考えるようになったこと。「今後の取組方法」は、中学校へもアプローチし、模擬議会、模擬請願、模擬選挙の取組みを進めること。

【ICT利活用による審議・調査の充実】

・本会議のペーパーレス化を進めていくべきではないか。そのためには、有料版の安定したシステムの導入もそろそろ検討すべきではないか。また、予算決算書についてタブレットでも見開きデータ表示で見ることができるよう進めてほしい。(上山昭彦委員)

・「達成度」はA評価とする。「課題事項」は、会議資料のタブレットデータ表示をもっと見やすくすること。「住民から見た変化」は、議会外でもタブレットで住民に議案や計画図等を見せることができるようになったこと。「今後の取組方法」は、会議資料のペーパーレス化をさらに進めること。また、タブレットでも見やすい会議資料の作成等を進めること。

【政策的議員提案条例の制定】

・「達成度」はA評価とする。「課題事項」は、地酒以外の地元飲料水の普及も図る必要があ

ること。「住民から見た変化」は、大きな会合などでの地酒乾杯が増えたこと。「今後の取組方法」は、条例の実行性を高めるため検証作業を進めること。

【議員定数の適正化】

- ・議会のあり方検討会議における話し合いから発議案の提出まで期間が空いたことから、議員間の全体共有を密に図るべきだったのではないか。（中平浩志議長）
- ・議員間の対話をもっと深めるべきだった。そうすれば拮抗した結論にはならなかったのではないか。（小野寺勝也委員）
- ・議員間討議の努力が足りなかった。定数を変えたことがよいという結論ではない。（濱欠明宏委員）
- ・「達成度」は評価しないこととする。「課題事項」は、議員間対話をもっと深める必要があったこと。「住民から見た変化」はなし。「今後の取組方法」はなし。

【災害時の議会体制強化】

- ・取り組みに至らなかったことから、「達成度」はEとする。
- ・本日の平成 28 年度評価を踏まえ、議会活動チェックシートを事務局調製後、各会派にて平成 29 年度チェックシートへのフィードバックを検討しておくこととする。なお、次回協議にて平成 29 年度チェックシートを作成することとする。

○その他

- ・長期欠席に伴う議員報酬の減額に関する検討について、事務局から資料説明があった。
- ・会派持ち帰りのうえ、次回協議することとする。